

宇宙開発の現状報告

(平成 22 年 9 月 1 日(水) ~ 平成 22 年 9 月 7 日(火))

平成 22 年 9 月 8 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

- 「はやぶさ」カプセル等の展示に関する公募開始

今年 6 月に地球に帰還を果たした「はやぶさ」のカプセル等については、これまで相模原、つくば、丸の内、お台場等で順次一般向けの展示を行ってきたが、今後、より多くの国民の方に見ていただくべく、展示を実施する機関の公募を行うこととした。公募期間は 9 月 1 日(水) ~ 30 日(木)で、来年度末までの間で最大 5 日間(搬送等に要する時間を除く。)の展示機会を JAXA が提供する。10 月に審査・選定を行い、早ければ 11 月中旬から公募で選ばれた機関での展示が開始される見込み。

宇宙開発に関する海外の動向

- プロトンロケットによる航行測位衛星の打上げに成功 【露】
9 月 2 日(木)0 時 53 分(世界標準時、以下同じ)、ロシアは、バイコヌール宇宙基地より、プロトン M/ブロック DM2 ロケットを打ち上げ、航行測位衛星「グロナス M」3 機の所定の軌道投入(中軌道)に成功した。打上げ時の質量は 1 機当たり約 1,450 kg。なお、現在運用中のグロナス衛星は 21 機で、軌道上に 2 機の予備機が存在。
- 長征ロケット、航行測位衛星の打上げに成功 【中】
9 月 4 日(土)16 時 14 分、中国は西昌衛星発射センターより、長征 3B ロケットを打ち上げ、シノサット社の商業通信衛星「シノサット 6(Sinosat-6、中星 6A、Chinosat-6A、ZX-6A)」の所定の軌道投入(静止トランスファー軌道)に成功した。
- 米 SAS 社、アトラス 5 ロケットによる商業有人宇宙機打上げの可能性に関する研究を実施 【米】
米国東部時間 8 月 27 日(金)、米 Environmental Tectonics (ETC) 社の航空宇宙訓練・研究(NASTAR)センターは、米 Special Aerospace Service(SAS)社との契約に基づき、アトラス 5 ロケットの飛行プロファイルを利用した、ヒト被験者の緊急事態認知・対応に関する実験を実施したと発表した。SAS 社は同実験を、商業有人宇宙飛行システム開発を目的とした研究の初期フェーズとして実施した。同実験では、同センターの遠心式宇宙飛行訓練用シミュレータ(STS-400)を用いてアトラス 5/402 ロケットの重力加速度上昇を正確に模擬し、NASA スペースシャトルの元コマンダ 1 名を含む 3 名の被験者について認知・対応に関する反応時間を調べた。

SAS 社は、NASA の民間による有人宇宙飛行に関する商業クルー開発 (Commercial Crew Development : CCDev) プログラムの下、米 United Launch Alliance (ULA) 社の緊急事態認知システム (EDS) 開発プログラムを支援している。NASTAR センターによると、有人宇宙機提供を目指している数社が、宇宙機のアトラス 5 ロケットを利用した打上げに関心を持っているとのこと。

- NASA、太陽接近観測ミッションを選定 【米】

米国東部時間 9 月 2 日、NASA は、2018 年までに打上げ予定の太陽接近観測ミッションである Solar Probe Plus に搭載予定の 5 つのミッションを選定した。同衛星は小型自動車程度の大きさで、約 400 万マイル (644 万 km) まで近づくが、これは水星の公転軌道の遠日点より内側に当たるもので、他の衛星が達成したことのない太陽観測を実施する計画となっている。選定されたミッションは、2009 年に実施された科学提案公募で応募のあった 13 件から選ばれたもので、NASA のゴダード宇宙飛行センターと主契約者になっている米ジョンズ・ホプキンス大学応用物理学研究所がとりまとめる。